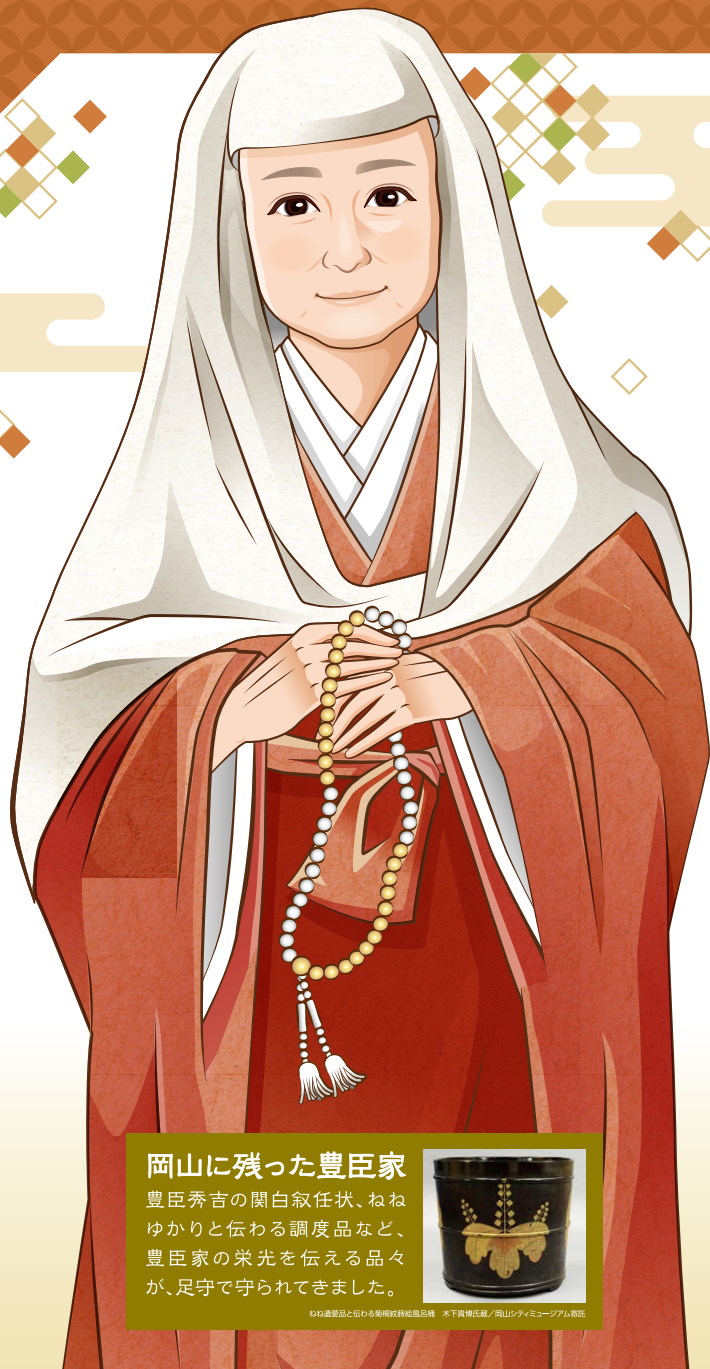


足守の
ゆかりの
人物伝

豊臣の大きいなる母 その誇りは足守に息づく



岡山に残った豊臣家

豊臣秀吉の関白叙任状、ねねゆかりと伝わる調度品など、豊臣家の栄光を伝える品々が、足守で守られてきました。



ねね遺品と伝わる関白叙任状（岡山） 木下真樹氏蔵／岡山シティミュージアム寄託

天下統一を成し遂げた豊臣秀吉の妻（正室）。その実兄・木下家定の決断が足守との縁を生みました。

転機は秀吉の死後。豊臣家の屋台骨を支えてきたねねと跡継ぎを生んだ淀殿との関係、豊臣恩顧の武将たちの仲間割れ、それらにつけ込み天下をめざす徳川家康。そこで起こった関ヶ原合戦。木下家は、息子たちが、徳川方と反徳川方に分かれ、真田家を思わせる苦渋の判断の末、家定自身は中立を決断。

そして、足守を領有したのでした。

豊臣家は、大坂夏の陣で滅んでしまいましたが、木下家は幕末まで存続。

ねねと秀吉が築いた豊臣の誇りは、ここ足守に代々伝えられました。

ねね
「高台院」

こうだいいん

(1549年～1624年)

もっと知ろう！ ねねと木下家

1

木下利房と 宇喜多秀家の忠臣



高台院像（ねね）/高台寺所蔵

ねねは関ヶ原合戦後、高台院と号し京都・東山に高台寺を建立。その境内にある圓徳院は3代・木下利房の法号に由来します。利房の妻は進藤正次の娘。正次は関ヶ原合戦の敗戦時に主を救った忠義が伝わる宇喜多秀家の家臣。正次の子・正勝は木下家に仕え、京にいる藩主に代わり足守で政務を執りました。

2

なぜ、秀吉は最愛の豪姫を 宇喜多秀家に嫁がせたのか



宇喜多秀家像/岡山城跡

実子がなく、多くの養子を迎えたねねと豊臣秀吉。そのうちの一人、実父が前田利家の豪姫は宇喜多秀家に嫁ぎます。宇喜多氏は、秀吉の中国攻めや、天下取りに貢献。秀家は豊臣家を支える次世代の雄と見込まれていたのでしょう。

3

もう1つの木下家 日出藩（大分県日出町）



ねねの甥で、木下家定の三男・延俊は、関ヶ原合戦で義兄・細川忠興とともに徳川方につき、日出藩（3万石）初代藩主となります。延俊の築いた日出城は、今も高石垣が別府湾に映えています。